

会員のば

A-ロッドのユニフォーム

札幌市医師会
我汝会さっぽろ病院

大西 信樹

当院で私が使用している一室の壁に、大きな額に入った野球のユニフォームが飾ってある（写真）。先日（8月12日）、NYヤンキースを引退したAlex RodriguezがTxレンジャーズに在籍していた時に着用していたもので、背番号の所に小さく自筆のサインがあり、鑑定書が付いている。額の大きさは108×82cm、中に収まっているのも見るからに大きなユニフォームで、190cm、102kgの巨体用だが、ちなみに身長は二刀流の大谷選手のほうが193cmと少しだけ大きい。自分の道具にA-Rodと書いていたことから、これがニックネームとなりA-ロッドと呼ばれるようになったようである。

このユニフォームは、同時多発テロが起こった2001年にフェニックスで開催された学会の期間中に行われたSilent Auctionで購入（落札）した。学会でAuctionを行うこと自体異例であるが、売り上げは全額Foundationに寄付することになっていた。Silentの意味は各出品物の前に最低価格が記入された1枚のシート用紙が置いてあり、落札希望者が学会参加番号と、指名、落札価格を順次書いて、学会終了日の午後2時を締め切りとして落札者を決定する仕組みのゆえんであった。出品物はほとんどがSport goodsで、各界の有名選手のサイン入りの品々が出品され、野球（バット、球、ユニフォーム）、テニス（シューズ、ボール）、ゴルフ（手袋）の品が多かったが、中には今年の6月に死去したモハメド・アリが使用していたEVERESTの深紅のBoxing glovesもあった。

この出品の中にA-ロッドのユニフォームがあった。A-ロッドが当時のスポーツ界史上最高の年俵の契約選手である（2001年レンジャースと10年契約で2億5200万ドル）ことはともかく、強打者で、ホームラン打者であること（実際には96年36本、97年23本、98年40本）は何となく覚えていた。大リーグではどんなにイチローがヒットを打ってもアメリカ人が一番興奮するのはホームラン数であり、Hアー

ロン（755）、Bボンズ（762本）がホームラン記録を塗り替えた時の全米規模の興奮は日本まで十分に届き、年間の記録更新（2001年Bボンズ:73本）の熱狂も大きく報道されていた。大リーガーではホームランが一番、そして将来MLBのホームラン記録を更新する期待充分の選手のユニフォームがそこにある、そして彼が記録を更新した暁にはこのサイン入り、かつ鑑定書付きのユニフォームは如何ばかりの価値となるか、よしゲットしよう！との思惑であった。前記者に100ドル（ケチか）を上乗せしてめでたく購入でき、約500ドルの運送代を掛け職場（嫁さんには内緒であったため自宅は不可）に空輸して、現在に至っている訳である。

そのA-ロッドであるが順調にホームランを量産し、2001年SEAマリナーズからTxレンジャーズへ、そして2004年にNYヤンキースに移籍して活躍し、2013年8月には通算650号を記録したが、禁止薬物使用（ステロイド）、スキャンダル（マドンナ、キャメロンディアス等）があり、2014年には薬物問題で完全に1年間出場停止処分となって、翌年復帰したものの、故障も重なり打撃不振のままシーズン途中での戦力外通知（外見上はアドバイザー就任）を受け、引退してしまった。道新の夕刊にも“無念さにじむ引退”と報道された。

結局生涯ホームラン記録は696本塁打（歴代4位）で留まり、本人、当方の思惑も含め大きく期待を外したが、これからもA-ロッドのユニフォームは一室の壁に静かに飾られていることであろう（見学、大歓迎ですよ）。



道北紀行

札幌市医師会
北大前北18条メンタルクリニック

亀田 謙介

4年ほど前に購入した自家用車にあまり乗ることも無く過ぎてしまい、このままでは積算走行距離が1万kmにも満たないうちに処分することになると気が付いて、平成28年のお盆休みを利用して、これを高速道路に載せて長距離走行を試みることにしました。目的地は稚内市としました。

午前10時半頃に自宅を出発し、まもなく高速道路に入りました。札幌市近郊でも渋滞することはなく、巡航速度も制限速度を多少上回る程度で走行しました。深川JCTを過ぎた地点からは、道路上の走行車両もまばらな状況となりました。高速道路も士別市で終了し、引き続き一般道40号線を走ることになりました。

途上名寄市付近の「道の駅」で最初の休憩を取りました。ここで販売していた大福は餅も餡もとても美味しかったです。この付近では、気温も30度を越えた真夏日となりました。道路の周囲は燦燦と日を浴びる草木により、見渡す限り緑に覆われていました。運転しながら、あたかも緑の海を一艘の小舟が波に揺られながら進んでいるかのような感覚になりました。道中いくつかの街並みを見ながら走行しましたが、それらの地から札幌に転居してきたり、逆に転出したり、そこから通院している人たちのことを思うと感慨深いものがありました。その日は午後4時頃に稚内市に到着しました。

一泊して翌日は午前10時半頃に札幌に向けて進路をとりました。40号線の幌延町付近から天塩町に入り、そのまま海岸沿いの道路232号線を南下しました。右手に日本海を眺めながらの運転でしたが、その日も晴天で風も無く海は波も立たず、海辺で海水浴を楽しんでいる人たちを眺望できました。一般道は道の駅も処々にあり、往路よりも寄り道の回数が多くなりました。沿岸道路をそのまま走行して石狩市から札幌市に入りました。復路の後半は集団走行となりましたが、渋滞することはありませんでした。往路の出発地点への到着はその日午後4時頃でした。結局、積算距離は1万kmには届きませんでした。

梅の季節がおわりました

札幌市医師会
札幌北楡病院

久木田和丘

最期死ぬ前に何が食べたいかという話がよくありますが、通常は寿司とかステーキでしょうか。ところがいろいろ変わった人がいまして、おにぎりとか玉子焼とかごく平凡に思われるものを挙げる人もいます。私も考えてみましたが、通年は食べるのできない生梅を食べたいと思いました。梅干しではなく生梅です。これは子どもの時に歩き回って木の実や草の実を探し回って採って食べたことに原因があると思います。グミの実、柿の実、すっぱいミカン、イチジク、野イチゴ、時にはアケビ、非常に固い梨、拾って食べた栗の実、銀杏の実、生まれた九州ではリンゴはありませんでした。そしてどこそこの庭になっている梅の実、これも大きいものから小さいものまでありました。梅の実は種が固くなる前に食べると青酸が含まれているので、危険なことは教えられていました。でも早々に種をかみ砕かないよう、そっとかじっていたのを思い出します。生梅は通年食べることはできず、日本の南の方から6月末には食べられるようになり、8月をもって北海道の生産がおわります。

今年は6月末に宮崎の果樹農園の通信販売で1キロを買い、7月になると札幌のマーケットにも本州産がでてきます。奈良にいる弟からも1袋送ってもらい、マーケットでは2袋買い食べていましたが、7月半ばには岩手にいる娘から2袋が2回送られてきました。今年は合計8キロくらい生梅を食べたこととなります。8月に入ると南高梅が売り出されていますが、歯ごたえがやわらかくて私の好みではありません。生梅はカリッとした歯触りとすっぱい味が天然なのです。お盆頃に最後の梅となる梅を2個いただきましたが、やわらかくなっており味も甘みがでてきて私にとっては残念でした。これこそ季節のものと、また来年度も2ヵ月食べられるかと思いついておられます。冷凍できればと思ったのですが、今のところ不可能なようです。

さて、皆様は何を食べますか？



化石について

札幌市医師会
東栄病院

常松 泉

男児は恐竜や古生物が好きなものようだ。当家の長男も例外でなく、図鑑の恐竜のページを幼稚園児のころから眺めていた。D新文化センターの夏の短期講座で、「三笠でアンモナイトの化石を採ろう」というのがあり、小2の夏の自由研究のネタ作りにと応募したら当たってしまい、自分と長男で参加することにした。日曜日が3回つづれた。ゴルフに行きたいのに…。

第1週の初日は、Powerpointのスライドで講義。講師はアマチュアの研究者らしき方お2人、写真係のD新の職員がもう一人。生徒は親子合計30人弱。女兒も少し。アンモナイトは白亜紀の生物で、オウムガイの仲間だという。北海道の三笠から夕張、芦別付近は白亜紀の地層が露頭した日本国内有数のアンモナイトの出土地だそうだ。おお、初めて知りました。北海道に住んでいる以上、掘らないと損である。

アンモナイトというと、平たい巻貝のような殻から、イカのような頭と足がでている図を想像するが、殻以外の部分は柔らかくて化石としては残らず、殻以外の部分は想像の産物だそうだ。巻貝のような形態のもの（正常巻きという）ばかりでなく、ステッキや曲がった水道管のようなもの、ほどけたゼンマイのようなもの（異常巻きという）もあり、後者の方がレアだそうだ。

死んで砂に埋もれたアンモナイトから有機物が漏れだし、砂が寄り集まって化石を中心にした砂岩ができる。これをノジュール（“Nodule”です）といい、三笠の河原の玉石に混ざって存在しているのをハンマーでぶち割って化石を取り出すのである。

2週目は三笠の山の中へ、貸し切りバスで行く。結構な雨だった。山中の橋のたもとでバスは止まり、そこから川岸にある小道（木材運搬の森林鉄道の廃線跡か？）を歩き、玉石の河原に着いた。川は増水し、ちょっと危ない。

さあ、ノジュールを捜そう。ところが、ノジュールってどの石？ さっぱり分からないのである。ノジュールは黄緑と茶色を混ぜたような色調で、表面は比較的つるりとしている。それらしい石を拾っては講師の先生に聞き、長男にも同じことをさせるのだが、なかなか難しい。少し分かった頃には結構時間が経っていた。

これを割るのがまた力がある。持ってきたハンマーのうち、大きくてパワーのありそうなものを長男に

渡し、もう一本あった古い金づちを自分が使ったが、なかなか割れない。そのうちに留め金が緩み、金づちの頭がどこかへ飛んでいってしまった。長男の方を見ると、小2の力ではいくらハンマーがよくても玉石を割れないようだ。ここで昼飯の時間である。戦果は、2枚貝（イノセラムスという）の化石がいくつか。

午後は雨もやみ、河原の水も少し引いて搜索可能範囲が広がったが、結構な人数がいるため、ノジュール自体が採り尽くされつつあった。長男からハンマーを取り上げ、ふくれた長男にはノジュール拾い係をさせる。しかし戦果は得られない。

あせっていると、小学校高学年の男子が、でかい石を持って自分に近づいてくる。「これ、何ですか？」と聞かれた。彼は講師の一人（20代後半と思われる眼鏡のやせた男性。貧相な感じが自分と似ていた）と自分を混同しているようだ。なんだか意味ありげな石に見えたが、分からないので本物の講師のところへ彼を連れていった。驚いたことに、彼の持っていた石は、それ自体が巨大なアンモナイトだったのだ。D新の職員の方がMVPとなった彼と化石の写真を連写する。自分と長男はボウズのまま、時間切れになってしまった。自由研究のネタは？

帰りのバスは無情にも札幌に着き、代わりの自由研究をどうするか考えていると、終点で講師の方が「何も採れなかった人どれくらいいますか？」と聞く。手を挙げたのが半分くらいの人だったか。「じゃ、これあげます」。講師の方が採った、小さいアンモナイト入りのノジュールの破片を頂けた。ふう、なんとかセーフだ。

3週目は化石の「クリーニング」。ノジュールの破片からドリルの刃とハンマーを使って化石を取り出すことをそう呼ぶようだ。これがまた難しく、化石を壊しては瞬間接着剤で張り合わせるという泥仕合の末、なんとかアンモナイトらしい形はできた。しかし直径3cmくらいしかなくて貧相だな、と思っていると、なんだかじゃんけん大会が始まり、結局講師の方が以前採られた10cm近い立派な化石を長男がゲットしてきた。ああ、やれやれ。自由研究も安泰だ…。

というのはもはや5年前の夏で、くだんの長男も中学生になってしまった。恐竜や化石に対する興味は完全に失い、ゲームに耽溺するばかり。自分の方は、老眼が進んで、化石のクリーニングはもうちょっとできそうにない。

日頃の生活が凡庸すぎて、こんな昔の話しか書けない自分を反省しつつ、筆を擱かせていただきます。

終われない恐怖の体験

札幌市医師会
佐々木内科病院

石井 勝久

皆さんも人生の中で何度か辛い場面を経験したことがあると思います。私の泣きたいほど辛い経験、それはピアノの発表会での出来事です。まさに“終われない恐怖”を体験しました。そもそも子どものころから音楽は大の苦手で、自分で演奏することなど想像もできませんでした。そんな私がピアノを始めたきっかけは、娘がピアノをやめることになり、その最後のレッスンの日のことです。先生に冗談半分で「家のピアノが粗大ごみにならないように、代わりにお父さんが習うと言ったら教えてくださいませんか？」と聞いてみたのです。45歳からの新しい挑戦が始まりました。ドレミも解らないところからのスタートで、レッスンは月に2回、1回たったの30分ですから、子どものようには上達せず、一步一步前進するといった調子でした。

その後、ピアノの発表会に出る機会がありました。1年目の発表会はとても一人では弾けず、“一度だけの切り札”の約束で妻との連弾で出場しました。この時は妻の助けもあり、あまり緊張もせずスムーズに弾けました。やがて2年目の発表会が訪れました。切り札は使えず、初めてのソロデビューとなりましたが、前年の経験から“一人でも何とかなるさ”の気分でした。当日は40人ほどの発表会で、大人は私一人だけです。出番が近づきステージのたもとで待っている時に、すでに手のひらは汗でべとべとです。ついに出番です。「『見上げてごらん夜の星を』、演奏は石井勝久さんです」。アナウンスとともにステージに上がると、いきなり大勢の観衆が目に見え込んできました。始まる前から心臓はばくばくです。弾き始めてすぐに頭の中が真っ白になり立ち止まりました。当時は譜面も読めず、記憶のみが頼りでしたから、途中でつまずくと曲の始めに戻らなければ弾けません。やがて“終われない恐怖”が襲ってきました。3～4回は繰り返したでしょうか。徐々に会場も静まりかえり、緊張感で押しつぶされそうな雰囲気です。もうこれ以上は無理、途中で頭を下げて帰ろうかとも考えました。最後は開き直り、小声で歌いながら弾き続けて何とかゴールにたどり着きました。長い長い10分間の体験でした。

ピアノを習い始めて7年目に突入し、曲のレパートリーも増えました。今年もまた“終われない恐怖”の季節がやってきました。歳を取ると譜面を見ながら、両手をばらばらに動かす作業はなかなか大変ですが、懲りずにチャレンジを続けます。

趣味について

札幌市医師会
遠藤眼科

遠藤淳一郎

昔から私は多趣味人間と言われてきました。しかし、歳を取るとともに体力が必要な趣味はだんだんと遠ざかり、まず50歳代の始めにスキー、大型バイク（これは重量が400kgあり、倒した時に起こすのが困難になって）から止めました。次は釣りが好きだったので船を持っていたのですが、古平のマリーナに置いてあり、そこまで行くのがおっくうになり、これも友達に譲ってしまいました。旅行も学生時代から好きで、開業してからは海外旅行によく行っていましたが最近はおっくうになり、今年の前月は女房とタヒチに行きましたが、これが最後かもと思っています。

最近、家庭菜園、料理（これはかなり凝っており、2ヵ月に1度の割合で札幌では手に入らない食材を東京まで買いに行きます）。料理は主に和食、中華です。

体を動かす機会も減ったので、4年前からサイクリング用の自転車です。厚別から北広島まで春から秋に周りの風景を楽しみながら乗っています。

今年の6月から、生まれて初めてピアノを弾き出しました。きっかけはボケ防止で、女房はプロのピアノ指導者で、全国のピアノコンクールの審査委員長を務めています。しかし、あの音譜が全く読めないで、女房に音符の横にカタカナでふりがな書いてもらっています。さらに女房が「なんで初心者なのにこんな難しい曲を選んだの」と言われましたが、この曲が好きだからでした。ショパンのエチュード Op. 25 No. 9の「蝶々」で、パソコンでいろいろな演奏家のを聞くとヴァレンチーナリシツアが一番上手いが、どんなに逆立ちしてもあんなに弾くのは不可能と悟りましたが、とにかくゆっくりでもよいので、暗譜で最後まで弾けるように、これはライフワークと思っています。



その情報、本当ですか？

札幌市医師会
ひらおか公園小児科

長田 伸夫

今春、大学に進学した息子の部屋から、大量の受験参考書や教科書が処分されようとしていました。中に高校の歴史の教科書があり、興味本位で中身を見てみたら、あれ？と思われるところが見られました。古代の方から行くと、エジプトクフ王のピラミッド、秦の始皇帝墓陵と並んで世界三大墳墓として有名な仁徳天皇陵が、今は「大山古墳（だいせんこふん）」と呼ばれるようでした。また聖徳太子という名前がカッコ表示になり、「厩戸皇子（聖徳太子）」となっていました（お札の常連であったあの聖徳太子がですよ！）。次の改訂では、聖徳太子という名前は消えるとも言われています。年号では「無事故（645）の日なし大化の改新」と覚えたはずなのにいつの間にか646年になっているし、「いい国（1192）作ろう鎌倉幕府」は、なんと1185年に変更されているではありませんか？ 今の学生さんは、「いい箱（1185）作ろう鎌倉幕府」とでも唱えているのでしょうか？

他にも自分が習った歴史と異なる点が多々ありました。自分が習った歴史は、いったいなんだったのでしょうか？ 受験ときに鎌倉幕府成立を1185年なんて書いたら教師に叱られ、思い切り×（バツ）ですよ。また真田幸村だと思っていたら（小生はですが）、今年の大河ドラマで、本名は真田信繁で、幸村は江戸時代の小説から来たものだから（諸説ありますが）。教科書の記述などは、それぞれ歴史的資料などが発見され修正されたものでしょう。実際今正しいと言われている記述も、後世にはまた違っていたということもありうるでしょう。歴史的事実と歴史的な記述は必ずしも一致しないということなのでしょう。情報網が発達していない状況に加え、歴史書というのは時の政（まつりごと）を担っていたものに都合の良いように書かれるのは、古今東西世の常でしょうから、いたしかたないのかもしれない。

さてインターネットの普及で、情報が瞬時に全世界に伝わる現代においては、どうでしょうか？ 事実と情報は、必ずしも一致しないという歴史から考えた場合、今私たちが得ている情報は、果たして事実でしょうか？ 情報には、発信者の意図が必ず組み込まれています。誰が、何のために発信したのでしょうか？ マスコミの情報を鵜呑みにしていませんか？ 膨大な情報から真実の情報をくみ上げるかどうかは、結局は、受け取る側の問題です。心を研ぎ澄まして情報に対峙したいものです。

黄金の州と籠の話

札幌市医師会
赤倉内科胃腸内科クリニック

赤倉 伸亮

アメリカの首都はニューヨークではなくワシントン。ニューヨーク州の州都もニューヨークではなくオルバニー。ではカリフォルニア州の州都はどこか知っていますか？ ロスアンゼルスでもサンフランシスコでもなくて、サクラメントという人口約45万の比較的小さな都市です。私はそこに留学していましたが、路面電車や港があるのどかな街で、函館に似た雰囲気でした。

ここが州都になった理由は、1848年にカリフォルニアで金が発見されて始まったゴールドラッシュにあります。サクラメントはサンディエゴからシアトルまでの南北に走る国道5号線と、ニューヨークからサンフランシスコまで東西を結ぶ国道80号線の交点にあります。またここは東西を走る鉄道の駅や大きな川の港があり、水路や陸路を使って物資を運ぶことができたため、非常に交通の便が良かったのです。1854年にサクラメントは州都になりましたが、州の象徴であるゴールドベアーを始め金色の建造物がたくさんあります。そして、カリフォルニアはゴールドステートと呼ばれています。

サクラメントには、メジャープロスポーツとして唯一「キングス」というバスケットボールチームがあります。私がアメリカに渡った2002年は、当時の王者レイカーズと優勝を争うほど強くて盛り上がりましたが、現在はキングスもレイカーズも下位に落ち、代わって州都ではないオークランドをホームとするゴールデンステート・ウォリアーズが一昨年NBAの覇者になりました。昨シーズンはポストシーズンの最終戦でクリーブランド・キャバリアーズに負けてしまいましたが、レギュラーシーズン中は連勝記録や最多勝利の記録も更新しました。その中心選手がステフィン・カリーとクレイ・トンブソンで、二人は3ポイントシュートをシュパッと滝のように決めていくので「スプラッシュ・ブラザーズ」と呼ばれています。NBAといえば体が大きくてごつい選手がダンクシュート決めるシーンがよく見られますが、このスプラッシュ・ブラザーズの登場でフロアからシュートを投げ込むという本来のバスケットボールの面白さを思い出させてくれたように思います。これまで日本勢は高さや身体能力の差から、欧米のチームには歯が立ちませんでした。このような外からどんどん入れてくるようなチームを作れば、いい線までいくかもしれません。

今年も10月に新シーズンが始まりますが、ウォリアーズが気になります。そろそろキングスも頑張っしてほしいところですが…。

ル・コルビュジエの建築作品一

札幌市医師会
札幌ことに乳腺クリニック

増岡 秀次

建築学部在学中の友人が、以前、フランスなどで撮影してきたル・コルビュジエの建築作品の写真を送ってくれた。その当時憧れの建築家で、好んで講義などに「ロンシャンの礼拝堂」などの写真を挿入し使用していた。

2016年7月17日、過去に2度世界遺産に推薦されていながら見送られていたル・コルビュジエの建築作品、7ヵ国17作品が「近代建築運動への貢献」を理由にユネスコ（国連教育科学文化機関）の世界遺産として登録された。驚き？ いや、やっぱり当然と受け止めた。

その一つに、1959年竣工の日本で唯一の作品、東京台東区「上野公園」の「国立西洋美術館」が含まれており脚光を浴びている。

彼は、スイス生まれで、30歳頃からフランスのパリを拠点に活躍し、後にフランス国籍を取得した建築家である。米国の فرانク・ロイド・ライト、ドイツ出身の ミース・ファン・デル・ローエとともに「近代建築の三大巨匠」と呼ばれている。

モダニズム建築の提唱者である。またデザイナーでもある。「住宅は住むための機械である」との思想のもと、鉄筋コンクリートを使った多くの建築作品を作り、その多くが歴史的建造物として保存されている。

20世紀初頭鉄筋コンクリートの技術が飛躍し、コルビュジエは石造りの建築から柱、床、天井に鉄筋コンクリートを使用した新しい建築法を提案した。

代表作は1931年フランス、パリ郊外ボワッシーに竣工の「サヴォア邸」である。ピロティ、屋上庭園、平面の中央には緩やかなスロープが設けられ、1階と2階を連続的に繋いでいる。散策路としての工夫もなされている。もとは別荘としての一般住宅であった。住宅建築の傑作で、20世紀の住宅の最高傑作の一つであり、フランスの歴史的建築物に指定されている。

二つ目の代表作は、1955年竣工のフランス東部のスイス国境近く、小高い丘に立つ「ロンシャンの礼拝堂」もしくは「ノートルダム・デュ・オー礼拝堂（Chapelle Notre-Dame du Haut）」である。元々ロンシャンは巡礼の地であり、中世に建てられた礼拝堂があったが、第二次世界大戦の際にドイツの空爆により破壊され、戦後ロンシャンの人々は再建を願い、ル・コルビュジエに設計が依頼され、1950年に設計が始まり、1955年に竣工した。変わった形の

屋根は蟹の甲羅をイメージして作ったと言われている。天気の良い日には青空と緑の芝に、白い漆喰が美しく映える。いつか行って観たい所である。

最後に日本での作品、上野公園の「国立西洋美術館」である。実業家松方幸次郎が、20世紀初めにフランスで、印象派など19世紀から20世紀前半の絵画・彫刻を中心とする多くの美術品を収集した。そのコレクションが、第2次世界大戦後、フランス政府により敵国資産として差し押さえられ、日本に返還される際の条件として、「国立西洋美術館」が建設されることになり1959年に竣工した。本館の設計はル・コルビュジエによるが、日本より彼に師事した「日本の3大弟子」である前川國男、坂倉準三、吉阪隆正が実施設計を担当した。

東京にいたときは「国立西洋美術館」にはいつでも行けると思い行かなかった。誠に残念である。友人は、時間を見つけては、フランス、スペインよりの「巡礼の道」など世界中を駆け回り、写真を送ってくれている。当方はいまだ毎日忙しい日々を送っている。いつかは行って観たいと思うこの頃である。



フランス パリ「サヴォア邸」 1931年竣工



フランス「ロンシャンの礼拝堂」 1955年竣工

大海を知らず

札幌市医師会
昂希内科クリニック

武田 真一

このたび北海道医報「会員のひろば」への原稿執筆の依頼をいただきました。依頼文には「新進気鋭の若い会員から広く新鮮な投稿を求めるため」とありましたが、果たして自分にその資質があるか疑問であります。ただ幸いにして「記事の内容は自由」ということでしたので、自分の故郷と北海道を比較してみたいと思います。

自分の故郷は山形県の南部に位置する米沢市です。山々で囲まれている盆地で、夏は暑く、冬は雪が多く除雪が大変な地域です。有名なものとして、米沢のABC (Apple, Beef, Carp) があります。

比較の1つ目。北海道にきてびっくりしたことは道がまっすぐで、そして地図の縮尺が本州と異なることです。札幌から道南までドライブでもしようかなと軽く考えたところ、とんでもない。飛行機で移動するような距離で、故郷の山形県を縦断するくらいの勢いが必要でした。なんと北海道の大きいことか！！

2つ目。魚は安くて美味しいことです。回転寿司に入ってもネタは新鮮で、大きくお得感が満載です。しかし野菜は高く感じます。故郷では畑を持っている家が多く、作りすぎた野菜は近所に配っています。朝玄関を開けると大根や白菜が積まれていることがたまにあります。

3つ目、北海道のパウダースノーです。スキー場の雪は札幌近郊でもサラサラで、まるで自分のスキーの腕があがったように錯覚してしまいます。北海道に来てからというもの、冬が待ち遠しくなりました。ちなみに、山形の雪は水分が多いベタ雪で、除雪するにも一苦労です。そういえば北海道に、道路の中心に消雪用の噴水がないことにはびっくりしました。言われればそうですが、北海道は気温が低くて水を出しても凍ってしまい、消雪にはならないのだそうです。

他にも、北海道の赤飯は甘い、茶碗蒸しは甘い、冷やし中華にマヨネーズが付いてこない、おせちは大晦日に食べる、などなど異なる文化もあります。北海道に来て初めの頃は「郷に入っては郷に従え」でやってきましたが、いつの間にか「住めば都」になってきております。最後に、「井の中の蛙」にならないよう、日々の研鑽を重ねていきたいと思っております。

麻酔科診療と超音波機器

旭川医科大学医師会
旭川医科大学 麻酔・蘇生学講座

国沢 卓之

私が医師になったころ、手術室内や外来で麻酔科医が超音波プローブを触る機会はあったであろうか。当時、経食道心エコー検査 (TEE) を利用して診断を行う循環器内科医を見て、「便利なツール」と思ったことが懐かしく思い出される。それから約20年、麻酔科医にとって超音波 (US) 機器は必須アイテムとなった。TEEは、術中モニタリングとして利用される他に、術式変更・追加などに寄与する診断機器として、また危険を察知し患者様の安全を担保するためのリスクマネジメントに必要な機器として利用されている。小型機器の登場は中心静脈穿刺時の利用普及に大きく貢献し、最近では小児・新生児の末梢静脈路確保や末梢動脈疾患患者の動脈穿刺でも有用性を発揮している。食生活の欧米化に伴う成人病罹患率の上昇は、従来麻酔科医がよく選択していた神経幹麻酔 (脊髄くも膜下麻酔と硬膜外麻酔) の適応症例数を減らし、区域麻酔 (RA) の選択頻度が上昇していた。時期を同じくして解像度の高いUS機器の普及が、難易度の高い神経ブロックの成功率を上昇させ相乗効果でRAが選択される頻度が上昇した。ペインクリニック領域でも運動器の診断や、USガイド下神経ブロックの施行にUS機器が重宝されている。US診断が最も適さないと考えられてきた気胸診断などの気道評価は、最近のトピックとなって麻酔科医の注目を集めているのも非常に興味深い。

便利な機器を利用して、不都合を生じさせてはいけないことは、他の領域と同様である。TEEのアーチファクトによる誤診や、USの走査面から外れた針による胸膜穿刺・動脈穿刺が生じてしまえば、折角の有用な機器が台無しになってしまうため、教育と実践が重要となる。功罪とピットフォールを理解して、利点のみ活用できるようになれば、これほど心強い診療アイテムは他に類を見ない。臨床的活用から普及した機器は、エビデンスを多く獲得してますます重要性が証明されることが今後の課題である中、さらに新しい活用法を見い出されたり、より進化した機器が登場したりすることも、とても楽しみな領域である。

飛んで、イスタンブール

札幌市医師会
あだち内科クリニック

安達 一幸

2013年4月末、エミレーツ航空で夜の10時ごろイスタンブールに着いた。朝は5時に街中のスピーカーから流れるコーランで目が覚める。1日数回定時に大音量で流れるコーランのおかげで時計を見なくても時間が判る。決して不快な音ではなく、慣れるとかえってすがすがしく感じるようになった。

滞在したダフネホテルは旧市街の中心部、スルタン・アフメット地区にあり、オペリスクが立ち並ぶ広場に近い。そこにブルーモスクとアヤ・ソフィアがある。「世界一美しいモスク」といわれるブルーモスクは今でも市民の祈りの場であり、床は厚い絨毯で覆われている。土足厳禁だが、絨毯が汚くて、独特の異臭をはなっているのには参った。それでも内部は青を基調としたタイルで覆われ、見事なステンドグラスと聖人の名前がイスラム・カリグラフィで書かれた円盤が天井から吊り下げられている。もっとも大勢の観光客でごった返し、とても荘厳な雰囲気とは言えなかった。

近くに、これも有名なモスクを現在は博物館として使用しているアヤ・ソフィアがある。ここは1200年代にコンスタンティノープルと呼ばれていた頃のキリスト教大聖堂であったものを、オスマントルコ帝国時代に内部を改装してモスクとして使用した。内部は現在改修中であるが、修復中に発見された「キリストと女帝ゾエ夫妻」のモザイク画は圧巻である。大勢の観光客が写真を撮ったり、中には熱心に祈る白人夫婦もいた。イスラム教とキリスト教が交差する歴史の流れを実感した。

昼食はボスポラス海峡の近くにある「オリエントエクスプレス」という店に行った。この店は名前の通り、以前はパリとイスタンブールを結ぶ鉄道の終着駅であり、当時の写真と並んでアガサ・クリステイの写真もあった。彼女の代表作「オリエント急行殺人事件」の舞台でもある。

翌日、スルタン・アフメット地区を散策していると、若いトルコ人が日本語で話しかけてきた。親戚が近くで革製品や絨毯を売っており、見に来てほしいとのこと。連れて行かれた革製品の店では従業員の対応も丁寧で、家内はバッグとブレザーを購入した。次に行った絨毯店の主人は、銀座でも店を構えているとのこと。日本語も流暢で、いろいろな絨毯を見せてくれた。あまり厚手のものは管理が大変なので薄手の絨毯を購入した。現在は自宅の居間で使っているが、なかなかのデザインで気に入っている。

その夜、ベリーダンスを見に行った。食事付きだが、あまりにまずく、あたりに日本人の客も複数いたが誰も食事には手を付けていない。でも、西欧人の客は結構食べていた。ショーはアクロバットまがいのダンスや、ナイフ投げがあり、最後にかわいい女の子がビキニスタイルで腰を振って踊るベリーダンスが始まった。気になったのは、会場に何本もある柱の陰で、人相の悪い男たちがじっとダンサーを監視している。おそらくマフィアまがいのやからが商売道具を見張っていたのだろう。

翌日はグラン・バザール（イスタンブール最大の市場）を訪れた。地図を見ながらでも迷ってしまうほど広く、しかも迷路のように入り組んでいる。お土産や記念品を買ったのち、通路に椅子を並べただけの店でチャイを飲んだが、感動するほどおいしかった。おまけに付いてくるお菓子もおいしく、さすが東西文化の融合した地域であると実感した。

午後はアジア側に位置するイスタンブール新市街とヨーロッパ側の旧市街を分けるボスポラス海峡を訪れた。長いガラタ橋を歩いて渡ると、釣り糸を垂れた人たちが両側に並んでいる。橋のたもとには漁船が並んでおり、船員が大きな声で「サバサンド」と叫んでいる。これが有名な「鯖サンドイッチ」として試みに食べてみたが、焼いた鯖をパンで挟んだもので、評判ほどはおいしくない。でも日本人の客で賑わっていた。

新市街はヨーロッパ調の町並みであり面白くなかったが、中心部のタクシン広場は後日市民と治安部隊が衝突したところでも有名になった。帰国する前日、再度ボスポラス海峡を訪れたが、あたりの光景が一変していた。橋が中心から別れて空に突き出し、そこいら中に赤い服の男たちがマイクでどなっている。その周りには腰に拳銃を付け、手に盾と警棒を持った大勢の警官が真剣な表情で警戒している。周りの人に聞くと、いつもとは様子が違って、しかも海峡にかかる橋を封鎖するのは初めてだとのこと。危険を感じて早々に立ち去ったが、あれがエルドアン大統領（当時は首相）に反対する市民運動の始まりで、デモ隊への抑圧、それに対する市民の反発が今も続いている。今年の初めのブルーモスク付近での爆発事件、その後はトルコ国内での頻繁なテロ事件、クーデター未遂事件など、あっという間に世界で最も危険な国の一つになってしまった。1978年に庄野真代が歌い、ヒットした曲「飛んでイスタンブール」を聞いたときに、地球の反対側から切に世界の平和を願うこの頃である。

待機児童？ …元保育園児のつぶやき

札幌市医師会
木村医院

木村 裕

保育園が足りず、待機児童については、以前から問題になっていた。今年2月にはインターネットでの「保育園落ちた日本死ね!!!」のつぶやきが炎上し、以後待機児童の問題がマスコミや国会でも大きく取り上げられた。今の日本で、多くの人が悩んでいるのは『乳幼児の育とうとする力を支え伸ばしていく教育』としての保育の問題ではなく、つぶやきのように親が働きに出ている間、『幼い乳幼児を保護・養育する』ための保育の問題だと思う。乳幼児のいる家庭では、保育園問題を回避して母親が働くのは難しいことが多い。言葉は汚いが、つぶやきの中に本音がたくさん詰まっていると思った。「保育園増やせないなら児童手当20万にしろよ」ここを読んで、小児科の開業医だった母を思い出した。お母さんたちに「3歳まではお母さんが育ててあげたら」と言っただけで、「先生、じゃあどうやって生活するの」と言われていた。今本当にひとりにつき20万円児童手当を出したら、待機児童は減って子どもも増え、少子化対策にもなるだろう。

私は姉と弟がいてきょうだい3人、戦後のベビーブームの時代で3人きょうだいなど普通だった。3人とも保育園児で、私が保育園へ行くようになったのは3歳から。両親は自宅開業で、近くに祖父母もいたのでそれまでの家庭保育がなんとか可能だったと思う。

両親が豊平川右岸近くで開業した1950年は、白石村（現在の白石区、厚別区、豊平区の一部）が札幌市に編入された年であり、今の豊平区、清田区、南区あたりはまだ豊平町（1961年札幌市と合併）だった。1950年の札幌市の人口約31万人、旧豊平町の人口を加えても周辺人口はそれほど多くはなかったが子どもは多く、病院・診療所は少なかった。診療時間後や夜中にも患者さんは来ていた。母が毎日忙しく働いている姿を見て、大変だと思っていたような記憶が、何となくある（大きくなってから聞かされ、自分の記憶のように思っているのかも）。

3人一緒ではないが、私たちきょうだいが保育園に通うようになって、母は少し楽になったと思う。でも、私は保育園があまり好きではなかった。

たいしたことではないのかもしれないが、元保育園児としては、以前から「待機児童」という言葉が気になっていた。「入園を希望して空きが出て順番が来るのを心待ちにしている児童」という風聞こえる。自分の3～4歳の頃までの記憶ははっきりし

ないが、私は保育園にはあまり行きたがらなかったらしい。姉が卒園した後は特にそうだった。同じ年齢の妻は3年間幼稚園に通っていたが、幼稚園バスに乗ることもお遊戯も体操も時々あるお弁当も楽しかった、と言っている。私は登園中に見る幼稚園バスがとても羨ましかったし、お弁当の後の眠くはないのに静かに横になっていなければならないお昼寝の時間は苦痛だった。理由など覚えていないが、園の庭の木に登って降りてこなかったり、返事をしなかったり、保育士さんに「抵抗」もしていたらしい。風邪からの中耳炎を反復し、併発した乳突洞炎が治癒せず、耳鼻咽喉科医の父のmastoidectomyを受けた。保育園はお休み、毎日の術後処置・包交後のご褒美のアイスクリームが楽しみだった。繰り返し風邪を引き、なかなか中耳炎が改善しない児を診ていると思出す。姉が小学生になってからは、姉の夏休みの時など、おしょうばんと言って時々お休みしていた。楽しい思い出たくさん元保育園児もいっぱいいるだろう。もちろん私も楽しかった思い出もある。しかし、特に0～2歳児にとって、彼ら自身の成長という立場から考えたとき、親から離れた保育園での長時間の集団保育は好ましいことなのだろうか、いや仕方がないということなのだろうか。ほとんどの幼稚園は午前中か昼食後の帰宅である。夏・冬休みもある。それも3歳からである。ということは幼児にとって、教育や社会性を身につける集団保育が必要だとしても、そのくらいの年齢から、その程度の時間でよいということなのだろう。

幼稚園の目的は学校教育法に、保育所の目的は保育所保育指針に書かれている。幼稚園は「義務教育及びその後の教育の基礎を培う」、保育園は「保育に欠ける子どもの保育を行う児童福祉施設」と位置付けられている。

待機児童という言葉には、母親の仕事の問題なども包括されていて「保育に欠ける」ようになるすべての要素が含まれていると思う。しかし、行政の対応は、保育園を、保育士の数を、保育士一人が預かる園児を増やすといったことで母親が仕事に出られるようにするということだと思う。物言わぬ待機児童・保育園児自身はどうありたいのか？ 客観的にはどうあるべきなのか？ を考えるとき、保育園待機親・待機家庭の数を減らすだけでなく、保育園児にとってよりよい、（母親など家庭での保育者が働く時の）雇用形態、社会参加の形も模索してもらいたいと思う。今の社会構造ではとても難しいし、それが簡単になるとも思えないが…。つぶやきが国会でも取り上げられた後、国会周辺や全国各地で「それは私です」のプラカードを掲げたデモがあった。もし、物言えぬ、まだうまく歩けもしない保育園児たちがデモをするとしたら、プラカードには何と書くのだろうか。